

年間第25主日

イエスが座り、十二人を呼び寄せて言われた。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。」マルコ9・35

ある日、聖ベルナールは大切な徳目を4つ挙げるとすれば、それは何かと聞かれます。聖ベルナールは「第一に謙虚さ、第二に謙虚さ、第三に謙虚さ、第四に謙虚さです。」と答えました。

今日の福音書には、イエスと弟子たちがカファルナウムに向かう途中の出来事が書いてあります。弟子たちは自分たちの中で誰が一番偉いかを議論していました。その時、彼らの議論に気づいたイエスは、弟子たちにさとすように言われました。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。」マルコ9・35

謙虚さは、現代においておそらく最も誤解されている美德だと思います。謙虚さは弱さと同じ意味であると誤解されることがあるからです。しかし、謙虚であることは、自分の特性を抑えたり、自分を卑下したりすることではありません。謙虚な人は、自分の居場所を知っていて、それを受け入れます。謙虚な人は、自分がリーダーとして導くべき時には導き、奉仕すべき時には奉仕します。しかし、謙虚な人は人生において最も勝利を収めているときでさえ、自分のすべて、そして自分が持っているすべてが神からのものであることを忘れません。

皆さん、真の弟子になるということは、真に謙虚になるということです。イエスが教えられた謙遜さについて、教会では、最高位の人（ローマ法王）を**Servus servorum Dei**（神のしもべのしもべ）と呼んできました。つまり召使の中で最も低い者がいるとすれば、それが教皇なのです。教皇はその召使の召使という意味になるわけです。カルカッタのマザー・テレサは、最も貧しい人々と同一視されることを好み、貧しい人々と同じように生きました。クリスチャンである私たちは、同じように謙虚にしもべとして仕えるように求められています。

さて、世の中では、人生で成功することや野心を持つことを強くすすめられます。野心を持つことは悪いことではありません。努力して昇進することは悪いことではありません。優秀であることは美徳です。しかし、時々それはとても危険な美徳なのです。私たちは、イエスの言葉、つまりリーダーとして人々を支配しようとする野心は、奉仕しようとする野心に置き換えるべきだというこの言葉を受け入れ学ぶべきです。自分のために何かをしてもらいたいという野心は、他の人のために自分が何かをしたいという野心に置き換えなければなりません。

今日は、私たちが日々の生活の中で、この謙虚さの精神と他者に奉仕する意志を持つことができるように祈りましょう。

